

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070300621
法人名	有限会社ほうらい
事業所名	グループホーム ほうらい小芝
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市戸畑区小芝1丁目6番10号 (電話) 093 - 871 - 8200

評価機関名	(株)アーバン・マトリックス		
所在地	北九州市小倉北区紺屋町4 6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成20年7月30日	評価確定日	9月11日

【情報提供票より】(平成20年6月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年10月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	16 人
職員数	17 人	常勤	12人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 3階建ての2～3階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	(水光熱費) 1日:440円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	330 円	昼食	540 円
	夕食	540 円	おやつ	120 円
	または1日当たり		1,530円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	16 名	男性	0 名	女性	16 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	共立病院 / 戸畑けんわ病院 / 大手町健和病院 / 長谷川歯科
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

本事業所は、鉄筋コンクリート造り3階建ての2～3階に位置し、2ユニットを有する。1階には、別法人運営のデイサービスセンターがあり、行事やレクリエーションを通して、格好の交流の場となっている。室内各所には、ソファが配され、入居者が思い思いに過ごし、くつろぎ、話をしやすいように配慮されている。広々としたベランダには、ベンチが置かれ、入居者は、日光浴やティータイムを楽しむことが出来る。各ユニットの基本的な造りは同じであるが、入居者の個性や状態・好みに応じた空間づくりの工夫がある。職員は、「ゆっくりのびのび楽しく」の理念のもと、日々その実現に取り組んでいる。地域とのつながりを大切にし、地域で活動するボランティアを積極的に受け入れ催しを行ったり、祇園や老人会等の地域行事にも参加し、親睦を深めている。運営推進会議や防災協力の依頼を通して、情報発信と透明性の確保に努め、昨年より開催された家族会は、年2回実施され、職員は、家族の意見に真摯に耳を傾けている。また、職員は入居者の生活歴の把握や日々の暮らしの中での気づきを支援計画に反映させ、一人ひとりの意向の実現や楽しみの創出に努めている。行事の実施後は、個別のアルバムが作られ、各居室にはスナップ写真が飾られている。そこには、単なる思い出の記録ではなく、入居者がその日のことを思い出し、それを契機に話題が広がるようにとの職員の思いが込められている。今後、思い出の記録としてのアルバムの増加とともに、更なるサービスの質の向上と職員の思いの実現が期待できるグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回調査では、リスクマネジメント(事故報告の届出)、個人情報の取り扱いについて指摘があったので、月1回のミーティングでヒヤリハット・事故の概要報告の検討を行うように改善している。また、個々の利用者の処遇を検討し改善を行い、それを運営推進会議にも報告している。個人情報に関する課題も医療機関・行政機関の手続代行等、入居者及び家族等に説明し同意を得るように取り組んでいる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者が中心となりミーティングを行い、全職員で検討し随時改善に向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回開催している。行事報告・事故報告を始め、入居者の処遇のあり方や非常災害時における通報・連絡体制のあり方等について協議し、地域の方々には防災訓練の協力を依頼する等、運営推進会議を地域との連携を高める大きな機会として捉え、主体的に取り組んでいる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	現状では、運営推進協議会や面会時も不満や意見等は出ていないが、気軽に意見や要望・苦情等を言っていただけの対等な関係を築くことが重要であると考えている。家族会は昨年より開かれており(2回/年)、出された意見・要望は、出来る範囲で実現出来るよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	これまで地域で暮らしてきた入居者は、地域の老人クラブ等も継続して加入してもらい、老人クラブの行事に参加している。(地方の方の)ボランティアとして、子供会や老人会の踊りやダンス・琴や歌の演奏等を受けて入れている。また、グループホームで行う行事については地域の方々に参加を呼びかけている。地域からの入居者が多いため、認知症の介護相談にも気軽に応じており、地域で住み続けられるホームの役割を果たそうと努力している。自治会への参加については、民生委員に相談しながら、前向きに検討している。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「ゆっくり、のびのび、楽しく!!!」という事業所のペースではなく、入居者のペースを尊重する主旨の理念を職員間で話し合い、理念をつくりあげている。		実際には、地域の中で住み続けられる支援を実践しており、これまでの取り組みを理念に反映させ、法改正により新設された地域密着型サービスの役割を含めた理念の検討を期待したい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念については、朝礼等で、日頃から職員に話を行い、その実践に取り組んでいる。理念の実践を図るために共有空間の壁に大きく掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の多様なボランティア(踊り・琴・子ども会のダンス等)の来訪がある。また敬老の日には、老人会より案内を受け、参加している。管理者は、近隣住民の相談に気軽に応じている。自治会への参加については、民生委員に相談しながら、前向きに検討している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	月1回のミーティングやカンファレンス時に、前回の指摘事項を取り上げ、話し合いを行い、具体的な改善を行うとともに、家族会や運営推進会議で説明し、意見交換を行っている。また、自己評価に取り組むことによって、職員一人ひとりが日々のケアやサービスの振り返りができている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、定期的に2ヶ月に1回開催している。行事報告・事故報告を始め、入居者の処遇のあり方や非常災害時における通報・連絡体制のあり方等について協議し、地域の方々に防災訓練の協力を依頼する等、運営推進会議を地域との連携を高める大きな機会として捉え、主体的に取り組んでいる。自治会長の参加もお願いしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	月に2回、北九州市より派遣される介護相談員を受け入れている。運営推進会議以外での市町村との連携が求められ、市町村担当者に運営や現場の実情などを地域全体で協働して積極的に伝える機会を作りたい。		
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。	社会福祉士の資格を有する管理者を中心に、実際に制度の利用が必要である入居者について、随時ミーティングで話し合いを行い、制度の理解と周知・活用に努めている。現在、手続き中である。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月2回「小芝だより」を作成し、行事や外出時の状況のお知らせを行っている。併せて、個々の様子については、担当職員が写真と近況報告を手紙で報告し、小遣帳の写しも同封している。また、家族の訪問の際には、入居者の様子や状態を報告したり、必要に応じて随時電話連絡を行っている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現状では、運営推進協議会や面会時に不満や意見等は出ていないが、気軽に意見や要望・苦情等を言ってもらえる対等な関係を築くことが重要であると考えている。家族会は昨年より開かれており(2回/年)、出された意見・要望は、出来る範囲で実現出来るように努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんどないが、退職等、止むを得ない場合には、ダメージを最小限に抑える為に、入居者には、早めに話し、混乱がないように配慮している。また職員の見解・不満等について、個別に話を聞き、希望にそえる対応に努め、人材が定着出来る職場づくりに取り組んでいる。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	採用にあたっては、性別・年齢等を理由に採用対象から排除することはない。個々の職員と話す機会を設け、ストレスの軽減や要望・意向の把握を行い、職員が生きがいを持って楽しく働けるよう努めている。また、職員のヒアリングから、希望する研修に参加できるサポートがあることが確認出来た。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	研修等の機会を捉え、入居者には言葉かけや態度に気を配り、人権を尊重する意識づけを図っている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	職員の希望により定期的に研修を実施している。外部の研修会の参加も支援し、研修後は、月1回のミーティングでの伝達を行っている。職員一人ひとりの長所を見出し、そこを伸ばしていく姿勢がみられ、日常の中でスキルアップ出来るよう意識されている。職員の中にも、積極的に研修受講を心がけ、希望にそえるように支援している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	同一法人が運営する有料老人ホームとの情報交換や地域のグループホームとのネットワークづくりを進め、サービスの質を高める取り組みがなされている。現在、地域の協議会設立を検討中とのことで、その実現を期待したい		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居前には見学や面談を通じて、相談に応じている。何度も訪問することから関係づくりを始め、入居当初は家族に頻りに面会に来てもらい、不安や寂しさを感じないですむように対応している。また家族にも充分説明して協力を得ている。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	グループホームの雰囲気は、のびのびしており、会話も活発である。入居者が遠慮なく職員に要望し、職員は、入居者に裁縫を依頼したり、食事の準備・後片付け等を一緒に行う等の対等な関係の中で、入居者が自分の役割を担っている。		
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握	最初に、家族との面談から、本人のこれまでの生活や暮らしぶりについて収集し、本人の思いや意向の把握の参考にしている。また、日常の全ての場面を入居者とのコミュニケーションの場と捉え、入居者同士の会話や雑談・しぐさを見聞き逃さず、本人の思いや関心の把握に努め、気づいた点は、日々の記録に落とし、職員間で共有し、対応出来るよう努めている。		
		一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している			
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人・家族の希望や意向を中心に、職員間でミーティングを行い計画を作成している。立案された計画は同意を得るなど配慮されている。職員全体が計画作成に関わり、対応出来るように、現在センター方式の導入などを検討されているとのことで、その実現を期待したい。		
		本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している			
19	39	現状に即した介護計画の見直し	計画の見直しについては、家族や医療関係者・職員と共に話し合いを行い、現状に即した計画を作成している。また、会議等で関係者には周知されている。		
		介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している			
3.多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援	デイサービスや老人ホーム等との合同行事・レクリエーションの機会を設け、多くの方々との交流・ふれあいの機会を大切に支援を行っている。また、地域の住民の介護保険や福祉サービスの相談・施設の紹介等も行っている。		
		本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4.本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援	家族や本人の希望による、かかりつけ医への受診を支援している。また、協力医療機関へも必要に応じて情報を提供し、適切な医療が受けられるように支援している。		
		本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居者の重度化に伴い、医療・介護との連携をどのように図っていくのが課題となっている。実際、家族や医師と話し合いを行い、関係者全員で医療及び介護の方針を共有し、支援を行っている入居者が1名いる。運営規定には、方針が盛り込まれているが、指針の確定には至っていない。現在、家族や主治医・職員その他の関係者全員で連携を取りながら、看取り支援の指針・終末期のあり方を検討している。家族会でも説明を行っている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	言葉使いや態度に気を配り、一人ひとりの尊厳を守る配慮をしている。特に排泄時のパット交換等では自尊心を傷つけないように特に注意している。また、記録の取り扱いについても配慮し、どんな些細な情報でも大切に扱う習慣を養うように指導している。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先したり、強制することではなく、一人ひとりのライフスタイルやペース、その日の体調や希望等を尊重している。ゆったりとした時間の流れにそった支援を心掛けている。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	嗜好調査を行い、一人ひとりの好みを献立に反映している。食材は旬の素材を使用し、季節感のある献立作りに努めている。食事の準備や片付けについては、入居者も出来る範囲で役割を担っている。食事は職員も同じテーブルでとり、料理の工夫を説明する等、会話が弾み、食事を楽しんでいただけるように取り組んでいる。箸や茶碗・湯呑についても、各自専用の物を使用している。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	入居者の習慣やその日の希望にそった入浴時間・回数となっており、一人ひとりの体調を考慮して気持ちよく入浴出来るように支援している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	食事の準備や片付け・裁縫等、出来る範囲での役割を担う機会を日常的に作っている。また、階下のデイサービスとの合同レクリエーションやボランティアによる催しを積極的に受け入れ、夜間の外出(イルミネーション見学)・外食・ドライブ等を実施し、楽しみごとや気晴らしの機会を多く持つように努めている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	入居者の体調や天候によって、買物や近くの公園等まで散歩を行っている。また、入居者の要望に応じて、自宅やドライブ・普段行けない場所への外出を可能な限り実施している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4)安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践	職員は、鍵をかけることの弊害を理解し、日中は施錠していない。安全面の配慮や帰宅願望のある方の対応については、個別の状態を把握し、日頃より見守りの徹底に努めている。出掛ける際には、職員も必ず同行し、本人が納得するまで行動を共にしている。またドアに鈴を付ける等の工夫もされている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年に2回避難訓練を実施している。内1回は、消防署の立会もあり、避難場所等、具体的な対策が検討されている。その内容は、運営推進会議にて報告され、併せて、地域の方への協力依頼等の働きかけに繋がっている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	同法人の栄養士が、一人ひとりの状態や栄養バランス・好みを踏まえた献立を作成している。糖尿病等、食事制限を要する方については、カロリーや食事量等、十分に留意されている。摂取量についても、日々確認し、一人ひとりの状態把握に努めている。また水分摂取についても、定期的に行うとともに、常時テーブルにてお茶を飲んでいただけるようにする等、十分な確保に努めている。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	共有空間や廊下の各所にソファが配され、入居者が思い通りに過ごし、くつろぎ、話をしやすいように配慮されている。季節感や生活感を取り入れる工夫として、花やプランターが飾られ、入居者の好みを反映した壁飾りや、新聞・絵画等が掲示されている。テラスには、ベンチが置かれ、ティータイムを楽しむことが出来る。また、トイレには、おしぼりが準備され、清潔な排泄支援への配慮がある。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室には、各自の好みや使い慣れた調度品・仏壇・テレビがあり、家族写真・行事のスナップ写真等が飾られ、本人や家族の意向が尊重された、居心地の良い空間となっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			